

巨大キャベツ 窓口に展示



巨大なキャベツが山田支店の窓口に飾られ、来客者の目を楽しませています。

これは、大野城市の城戸一郎さんの圃場で収穫されたもの。キャベツは、外葉を含んだ直径が約50cm、重さが約5kgもあり、普通のキャベツと比べると誰もが驚く大きさです。品種は「札幌大球甘藷4号」で、柔らかい肉質と甘味が特徴。JA農産物直売所ゆめ畑大野城店でも販売しています。城戸さんは「管理を徹底し、時間と手間をかけて育てた。大きな葉を活かして、ロールキャベツなどさまざまな料理に挑戦し、美味しく味わった」と笑顔で話していました。

女性農業者を育成



筑紫地区の農業に従事する女性らで組織する、筑紫地区農村女性ビジョン推進協議会は1月27日、JA筑紫本店で「平成28年度筑紫地区農村女性ビジョンリーダー研修会」を開きました。

研修会は、女性の地域農業振興における能力発揮と農業女性団体の相互交流、各組織のリーダー育成を目的に毎年行っています。

当日は、JA女性部や筑紫地区女性農業者グループ、福岡普及指導センター、行政関係者など約120人が参加しました。

研修会では、エビス味噌醸造元 蛭子屋合名会社女将の安藤久代氏を講師に招き、「さらに100年に向けた、老舗味噌屋おかみの挑戦！」を演題に講演。安藤氏は、「健康と笑顔を食卓に」をモットーに、味噌屋三代目女将として挑戦したことなどを話しました。参加者は、傾きながら熱心に話を聞き、メモを取る姿もみられ、研修後は「とても参考になった」と好評でした。

次世代の農業リーダー育成を目指す



筑紫地区農業振興協議会は1月26日、「新規就農者(青年就農者)のつどい」を開き、新規就農者5人が参加しました。つどいは、農業者の高齢化や後継者不足が懸念されるなか、新規就農者と同協議会の交流を図り、新規就農者への更なる支援と拡大を目指す目的で開かれました。

当日は、筑紫野市の農家を2件視察。参加者からは、施肥方法や病害虫の防除方法など質問が上がり、熱心にメモをとる姿が見受けられました。参加者は「とても勉強になった。今後も野菜作りに尽力していきたい」と話していました。

筑紫地区農業振興協議会は、福岡普及指導センターや行政、JAで構成。構成員が連携し、地域農業の振興と農業技術向上に努めることが目的に活動しています。

直売所がケアステーションで出張販売



ゆめ畑太宰府店は1月24日、通所リハビリや日帰り介護などを行う筑紫野市の「総合ケアステーションあけぼの」で、出張販売を行いました。今回が初めての取り組みで、今後も定期的に行う予定です。

出張販売は、通所者が買い物を楽しみながら歩行訓練や支払いの計算を行い、自立支援に繋がることが目的。通所者80人が施設内の特設店舗を訪れ、買い物を楽しみました。日頃外出する機会が少ない通所者も多く、農産物や加工品などを自分で選びながらカゴに入れる姿が見られました。通所者は「久しぶりに自分で悩みながら買い物をした。旬のものがたくさん並んでいて、楽しかった」と笑顔を見せていました。城戸店舗長は「通所者の皆さんに喜んで頂き、次回も楽しみにしていると云われたので大変嬉しかった」と話していました。

接客対応技術向上を目指す



JA筑紫は1月24・25日の2日間、JA本店で「平成28年度窓口対応・セールスロールプレイング大会」を行いました。

この大会は、金融店舗窓口職員の接客対応の技術向上を目的に毎年開催しています。2日間で入組4年以下の職員44人が出場。大会の審査員には、JA福岡信連やJA筑紫職員らが参加しました。

審査基準は、身だしなみや商品の内容をお客様に分かりやすく伝えているかなど。職員は手作りのデモブックやチラシを用いて、緊張しながらも日頃の接客対応の成果を存分に発揮していました。後日、大会の実施日ごとに高い評価を得た上位3人を選び奨励します。JA筑紫は、今後も職員の接客技術の向上と意識を高め、より良い金融店舗づくりに取り組んでいきます。

7年続く交通安全指導地域との交流に繋がる



JA筑紫向佐野支店は、支店前の交差点で登校中の小中学生を見守る「交通安全指導」を、2010年から7年続けて行っています。

この活動は、JAが取り組む「ふれあい活動」の一環。通勤ラッシュで車が混む朝7時30分から8時までの間に、地域ボランティアらと共に、登校中の子ども達を見守り、交通ルールを指導しています。また、職員が子ども達に声をかけ、子ども達も元気な挨拶をするなど、職員と地域の交流にも繋がっています。

健やかな人生を



JA筑紫女性部は1月25日、JA本店で「ゴールドミセス学級」を開きました。心身共に健康で明るい生活を送るために毎年開催。77人の女性部員が参加しました。

佐藤靖典氏が「～人生100年、最後は一週間～“百楽人生”と一緒に」の演題で講演を行いました。佐藤氏は「健康に長生きして、楽しみと生きがいに充ちた健やかな人生を送りましょう」と呼びかけました。女性部員は、大きく頷きながら講演に聞き入り、「大変勉強になった。毎日の積み重ねを大切に、健康寿命を伸ばしたい」と笑顔で話していました。

女性部員 スポーツに挑戦



JA筑紫大野城ゆめカレッジは1月18日、大野城支店で「ユニカール」を行いました。女性部員とJA職員21人が参加。3人1組のチーム戦を行いました。参加者は初めて挑戦する競技に悪戦苦闘しながらも、コツを教え合いながら楽しんでいました。

ユニカールは、冬季オリンピック種目の「カーリング」をもとに考案されたスポーツ。取っ手のついたストーンを的に向かって投げ得点を競います。

参加者は、「難しかったが、皆で汗を流し楽しかった」と充実した様子でした。

地域防犯に貢献／JA筑紫へ感謝状



JA筑紫は1月18日、筑紫野市の筑紫野警察署で行われた感謝状贈呈式に出席しました。JAが管内の防犯意識の啓発・普及に取り組み、安全安心まちづくりに大きく貢献したとして、筑紫野警察署の下田雄治署長からJA筑紫の白水清博組合長に感謝状が贈られました。

JA筑紫は日頃から、役職員による「JA筑紫安全安心まちづくり隊」や青色回転灯車両(青パト)を中心に、防犯活動に努めています。また、JAの主要支店・事業所の道路に面した場所に防犯カメラを設置するなど、安全安心まちづくりに積極的に取り組んでいます。白水組合長は「今後も積極的に安全安心まちづくりに貢献していきたい」と話していました。

継続出荷に向けて士気を高める



JA筑紫ブロッコリー部会は、共同選果体制である部会全体の技術・意識の向上を図るため、福岡大同青果の市場視察の後、「生産販売中間反省会」を行いました。

会には、部会員と福岡大同青果(株)、福岡普及指導センター、行政、JAなどが参加。平成28年度の販売情勢や出荷実績、農薬の混用方法などを確認。その他、育苗方法や若手部会員の育成について話し合い、出荷目標の達成に向けて、部会員たちは士気を高めました。

平成28年度産は、9月以降の多雨や日照不足が影響し、全国的に生育不良となっています。部会も、天候不順が出荷量の減少に繋がっています。砥綿和廣部会長は、「今年度は天候の影響で全体的に収量が伸びていないので、継続出荷に向けて頑張っていきましょう。」と、力強く挨拶しました。

二十歳の門出祝い 周りから信頼される職員に。



JA筑紫は1月11日、JA本店で二十歳の門出を祝う「成人式」を行い、新成人の職員5人が参加しました。

式では、新成人に祝いの記念品を贈呈後、白水組合長が「常に笑顔を忘れず、周りから信頼される職員になってほしい」と激励しました。新成人を代表して、営農生活部の宮原庸晃さんは「このような機会を設けていただき大変うれしいです。成人としての自覚を持ち、業務も自ら考えて動いて頑張ります」と抱負を述べ、新成人としての決意を新たにしました。

農機11台初荷。安全を祈願



JA筑紫は6日、筑紫野市の本店玄関前で平成29年農機初荷出発式を行いました。農機情報員やJA関係者ら24人が参加しました。

当日は、農作業の安全を祈願した真新しいコンバインやトラクターなど11台の農機が、のぼりが飾られたトラックに積まれました。式後は、参加者の拍手と共に、縁起物の搬入を心待ちにしている組合員のもとへ一斉に出発しました。出発に先立ち、白水組合長は「組合員の方々とコミュニケーションを図りながら要望に応え、農家所得や農業生産の向上に繋がるように努めていきましょう。」と話していました。

JA職員が巫女奉仕



2017年1月1日、大野城市牛頸にある平野神社で、JA筑紫の支店職員が巫女奉仕を行いました。平野神社は、毎年元旦になると多くの人々が参拝に訪れる、地域から愛される神社です。当日は、牛頸支店と下大利支店の窓口職員2人が巫女として参加。参拝に訪れた組合員や地域の方々との新年の挨拶を交わしながら、お神酒などの配布を手伝いました。参拝客の列は、終日途切れることなく賑わっていました。

巫女をしたJA職員は「とても貴重な体験だった。地域に貢献することが出来てよかった」と笑顔で話していました。